

平成29年度 第5回古賀市文化芸術審議会議事録

日時：平成30年2月19日（月） 10時00分～12時00分

場所：市役所第1庁舎4階第2委員会室

出席：審議会委員 緒方泉会長、中山早由利副会長、加藤潤二委員、坂崎隆一委員、平井康之委員、米倉小夜子委員、西野宏委員、結城俊子委員

事務局 長谷川清孝教育長、清水万里子教育部長、星野美香文化課長、川原幸恵文化振興係長、文化振興係主事田中音羽

欠席：審議会委員 志賀満江委員、豊村良子委員

傍聴者：なし

配布資料

- ① レジюме（第5回古賀市文化芸術審議会次第）
- ② 古賀市文化芸術振興計画後期アクションプラン見直し（案）（事前配布）

（司会：川原文化振興係長）

- 1 開会のあいさつ（清水教育部長）
- 2 教育長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 協議事項（田中）

ではご説明させていただきます。事前配布しておりました資料、文化芸術振興計画後期アクションプラン（案）をご覧ください。記載している事業の詳細につきましては、前回の審議会にてご説明させていただきましたことから今回省かせていただきます。本資料は前回ご提出いたしました資料をもとに、委員の皆様からいただいたご意見を反映させたものとなっております。新たに概要・対象・担当課を項目に加え、書かれている事業がどういったものなのか、一目でわかる資料となっております。ただし、前回いただいたご意見の中で、地域等に出向いて文化芸術活動を推進するアウトリーチについて記載してほしいというご意見と、地域との連携について記載してほしいというご意見、また、重点項目をわかるようにしてほしいというご意見についてはまだ反映できておりません。反映出来ていない理由としましては、アウトリーチについて記載してほしい、地域との連携について記載してほしいというご意見につきましては、アクションプランの六つの柱である「今ある宝を再認識する」「眠った宝を起こす」「人にやさしいまちづくり」「ざわめきづくり」「環境づくり」「誇りをおこす」の中のどの目標の下に入れるのが適切か、皆様のご意見を頂戴した後で反映できればと考えております。また、重点項目がわかるようにしてほしいというご意見につきましては、どの項目を重点とするか、皆様のご意見、これもお伺いした後に反映していきたいと思っております。それ以外にも、現状を鑑みて、今、記載している目標以外にもこういった目標が必要ではないか、5年たった今、新たにこういうことが必要になったのではないかというご意見もありましたら、併せてお伺いできればと思います。まとめますと、本日も審議いただきたい内容といたしましては、まず初めにアウトリーチについて記載してほしい、地域との連携について記載してほしいというご意見につきましては、どの目標の下に入れるのが適切か皆様のご意見頂戴出来ればと思います。またその次に現状を鑑みて、記載している目標以外にも必要な目標がないか、皆様のご意見頂戴出来ればと思います。最後に重点項目について、本課では現在5年たった時点で十分に組み立てていない目標、例えば目標の下に挙げられている事業数を見ていただければ大方わかりますが、それらを重点としてはどうかと考えております。また、上位計画である第4次古賀市総合振興計画の中に、文化芸術の人材育成の推進について掲げておりますことから、人材育成については重点項目にする必要があるかと考えております。皆様のご意見頂戴できればと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

(緒方会長)

ありがとうございました。前回、地域との連携やアウトリーチ活動というものについても明記する必要があるんじゃないかというような話も出たところでした。それと、計画が5年たつ中において、事業のばらつきというのが結構出てきてるところなのでそこをどのように見ていくのか。先程も言ったように、精査してへこんでいるところを押し上げていくような後期のアクションプランにしていくのかなどいくつかの視点を事務局が今まとめてくれたのかなと思います。それと確認ですが振興計画の中に、文化芸術の人材育成の推進という項目がありますか。ごめんなさい。総合計画を見ていないのでわからないので、そこを教えてくださいませんか。

(事務局)

マスタープランという古賀市の大きな計画の中に、古賀市の文化芸術については人材育成を推進するということで、項目として挙げさせていただいております。本課ではそれを重点項目としていきたいなと考えております。

(緒方会長)

ありがとうございます。前は大きな柱で、この緑のところ、項目のところというと1番目から見て「古賀市の個性を起こそう」というところで、「今ある宝を再認識する」、次のところが、「眠った宝を起こす」、そして次のページに「古賀市の新しい魅力を興こす」、「人にやさしいまちづくり」、3枚目に「ざわめきづくり」、「環境づくり」、「誇りをおこす」というような大きな項目があって、その項目の中にそれぞれの目標、例えば「今ある宝を再認識する」というところでは、「リーパズプラザこがなどの文化施設を活用した学習機会を提供する」ということで、具体的な事業をあげていき、担当課の方から今やっている事業を出して、それをまとめてもらったものが今この横表の中に反映されているということでした。当然のことながら文化課の事業が多いですが、ただ見ていくと、「人にやさしいまちづくり」などについて言えば、全市的・全庁的に、様々な課というものが参加しているということも見えてくる。このアクションプランについて言うと、やはり文化課単独の話ではなく、全庁的に取り組むものであるということが大前提になっているところです。その中でもそれぞれの項目によって、課のばらつきなど当然ありますが、今後の目標などを考えた場合、こういうものも盛り込んだ方がいいのではないのかということも今日話が出来るといいのなと思ってるところです。ただこれについては、私も平井委員もそうですが、古賀市に住んで古賀市のことを日常的に見ている訳ではないので、まずは委員の皆さんからそれぞれ前回も踏まえながら新たにこういうことをやった方がいいのではないのかということ、それと、5年経つ中においてまだ十分に組み立ててないことについても皆さんが1番よくご存じだと思います。先程事務局から出たところで、まずはそのアウトリーチをどこに入れようとか、地域との連携どうしようとかというのは後で考えたいなと思っていて、今日のところは最後の会議になるので、まずはその目標について皆さんの考えを聞かせていただきたい。人材育成についても、実際にそれを重点としてどこかに入れ込むということも、全体を見たところで話をさせていただきたいと思います。まずは皆さんがこの5年間の中で、アクションプランをもう一度見直してみる中において、どのように評価をし、どの部分について力を注いでいく今後の5年になるのかということでご意見をいただきたいなと思ってます。まずは中山委員からお願いします。

(中山副会長)

この前作ってくださった表が見やすくなっていると思います。私は特に子どもたちの文化的な環境がより良くなればということを考えてきました。そして子どもたちが主体的に参加できる事業というところでは、いろいろな視点を入れてくださり、例えば、子ども考古学部とか、子ども図書館員とか。また、こども美術展では、子どもたちが選ぶこども大賞など、ここで皆さんが出してくださった意見が入ってきているなと思ってます。ただ、一つですね、2番目のところで、子どもたちが文化芸術に親しむ機会を学校と連携を図り提供しますというところなんです。

(緒方会長)

2 ページ目の短期・中期・中長期の短期のところの一番上のところの項目ですね。

(中山副会長)

そうです。ありがとうございます。ここで読書などは推進されていますが、前も事務局に、学校で舞台とかそういうものがどれだけ鑑賞されているかということについて調べていただきましたが、いま一つそれが進んでないと感じます。何かその連携を図るところにも、具体的に生の文化的なものを鑑賞する機会であったり、文化協会さんと協力してくださっていますが、子どもたち自身が表現をする活動であったり、そういうものがぜひ次の5年で出てきたらいいなと思います。どこに入れていくかなど皆さんのお知恵で具体的に考えていけたらいいなと思います。それと、この事業を担当課の方たちが、古賀市で文化芸術を進めていくにあたって、そういう視点でまちづくりをしていく時に、それを皆さんがしっかり受けとめてというか、文化課はもちろん受けとめられているでしょうが、その連携というのか、全体的な情報交換やそういうものを図れるような場所っていうのがどこかあったらいいのかなと、今されているかもしれませんけどね。そういうのが一つと、あとこの前、つながり広場のボランティア団体の方で緒方先生が講演をしてくださって、ワークショップもあり、交流の機会もありました。文化芸術に関わるいろんな活動されてる方たちがいると思うんです。文化協会に入ってる方も入ってない方もいらっしゃるでしょうけど、そういう方たちが集って交流したり、自分たちを一步進めていくってことでそういうものもあればいいなと思います。人材育成とかそこに関わってくるかと思うんですが、この前の緒方先生がくださったワークショップが、交流出来てとても元気になるものでしたので、そういうところをちょっとこの中に入れていただきたいと思います。それと、子どもたちの学校での鑑賞活動と表現活動という部分で、子どもたちが行くそういったものが入ってくることや、具体的に学校と連携を図るといふ部分が見えてくればいいなと思っております。

(緒方会長)

今、2 ページ目のところの1番上の段のところには、読書活動、芸術活動、それから音楽活動、そういうものが入ってきていますね。大きな目標があって、次に具体的な事業、各課が行っている事業として直接的な名前が出てきているから、今お話ししてくださったような舞台芸術などの鑑賞っていう表現活動、鑑賞表現というか、そういうものを入れようとする、事業としてということになるので、どこの課が持つんだみたいな話になってくると思うんですよね。だからどこまで事業としてこの中に入れ込めるものなのかということはあるかもしれないですね。ただ、そういうのをどういう表現でこのアクションプランの中に盛り込んでいくのか。事業っていうのはあくまでも各課で政策的に行っていくもので、我々の方はこの中で、事業として入れてくださいよと言って入れていけるものなのかというのはちょっと僕はわからないので、後で事務局の方で教えてくれるんじゃないかなと思います。一応こういうものが入ってないよということで、まずは聞いてもらったらいいんじゃないかなというふうに思います。皆さんの方も、こういうものが入ってないよというご意見をまずは出してもらうことになるのかなと思います。それとアクションプランの中で、今言ったように調整会議というのかな、これは当然しているんですよね。ご意見を出してもらう中において、それぞれの課の方にもフィードバックしているんですよね。このアクションプランの中で、各課から全庁的に上げてもらったものがこのようになりましたよと、もう一度見てくださいよというようなことのやり取りはしているんですよね。

(事務局)

はい。この資料もそうですが、一つ一つ変わる度に、担当課と担当には確認していただいて文言等間違いはないか、目標はこの下でいいのかとかかなどの確認はとっております。

(緒方会長)

ありがとうございます。

(結城委員)

計画が出来てもう5年経つわけですが、最初は本当に文化や生涯学習推進課の中で、文化の担当だけが文化芸術を進めているように思っておりましたが、文化課も子育て支援課も、介護支援課、青少年育成課の方もしっかり取り組んでいただいて、今事務局がおっしゃったように市全体で、文化芸術を進めているのかなと感じます。私も実際、文化のことをやっておりますけど、文化を使って福祉の部分で、千鳥苑に行ったり、各地域の福祉や、福祉会のサロン活動でレクリエーションをしたり、軽い体操したりとかそういうものを取り入れて、元気なお年寄りでいてほしいということで活動を行っております。また、子どもたちにも、児童館とかでは親子体操でゲームをしたり体操したりとかやっております。本当に文化は文化や教育の部分だけではなくて、福祉の方にもしっかり古賀市では取り組んでいただいているなというのを感じています。そして中山委員さんがおっしゃったように、まだまだ演劇とか、私も子育て時代に子ども劇場に入って、生の演劇を見せてきました。やっぱりどうしても今の子は、画面でDVDやテレビを観たり、タブレットでというような子育てが多くなってきてるけど、本当に生の人間が演じているそういう舞台を体験するというのはとても大事だと思います。そういう回数をもっと増やすように、今後は体験型ですよね。学校ではフェスタとかで、各学年で歌ったり演劇したり、合奏したりとかありますが、やっぱりまだまだ子どもたちの表現力というのは、伸びしろがあると思います。そういう演劇の体験とか、今少しずつアートのほうも、絵画教室とか学校の先生だけでは限られた指導になるので、やっぱりプロの方、また古賀竟成館高校の生徒さんを使うとかいうのもありましたが、そういうお兄さんお姉さんの力を借りて小学校でアート教室をやるとかいうのを今後また5年間の中にしっかり盛り込んでいただきたいと思います。

(緒方会長)

ありがとうございます。行政の分課化というのか、やっぱり見える化をしていくと各課も新たな気づきっていうのが出てきて、うちにもこれあるよってことが出てくるかもしれない。今アクションプランをつくる中で、この庁内で浸透してきているということはとても大切なことだと思います。また今後についても、それは継続して行っていってもらいたいし、その中で各課が気づいて、こういうものが足りないよねっていうようなことで政策を打って出していってもらおうと、よりよいアクションプランの中身になると思います。我々は枠のところで話はできるんですが、具体的なアクションプランの中身の部分で、事業展開してお金を取ってくるのはそれぞれの課であると思うので、そういう意味で我々は希望を出していき、その希望を各課がどう受けとめて形にしてくれるのか、実際にそれを形にしていってもらうためのこのアクションプランの中でどのような盛り込み方がいいのか、アクションプランがどんなものになるのかなっていうことを考えていくことが我々の課題でしょう。全庁的に行政職員は気づきのアクションプランになってきているのは間違いないだろうなと思っています。というのは、どんどん事業が増えていきますよね。これまでに比べると、そこはすごく庁内が動いてきているなという印象は持っています。それでは、米倉委員お願いします。

(米倉委員)

前回欠席してすみませんでした。前回の資料のアクションプランを見たのと、今回の見直し案は見て、すごくわかりやすく、よくまとまってきたなと思っております。見ていると文化課の仕事というのが、今言われたようにすごく多いようですので、目標達成っていうことを考えると、補助金も少なければ、いろんな力、尽力がいるのではないかと心配します。田中さんもとても頑張っておられると思いますが、やはり文化課だけでは出来ないことが多いなと思います。それでここに書かれている担当課も、介護支援課、青少年育成課、子育て支援課、学校教育課、生涯学習推進課、隣保館、都市計画課といろんな課が並べられているので、市役所の職員の方たちがやっぱり仲よく協力し合わないといけない事業じゃないかなと思います。それでこの間リーパズプラザこがの交流館に行きますと、小野校区の写真展っていうのをやっていて、ほっとしました。やはり小野校区が

こういうことをしているんだなって1回でわかるので、ああいう地域の発信を交流館で行うということは、すごくいいし、交流館に行ったら何かに出会える。だから私は交流館へ行ったら必ず展示物を見て回っているのですが、何かに出会えて、一般市民、子どもとか、大人の方も喜んで集える居場所にもっと発展させていけたらいいなと思います。常時展示物は、今もきちんと飾られています。いいなっていういろんな案内など、展示物の写真とかにしてもいいものがあるのですが、もう一つ、今度は芸術性の高いものを目指して、展示物とかは考えてもらいたいなと思います。それで前から気になって言っておりましたが、一点美術館のことですが、今日もちょっと覗いたら、今日は血液の何か赤十字の日で、一点美術館はどこにあるのか端っこに追いやられて、作品はあるけれども、ちょっとこういう感じでは、一点美術館っていう雰囲気がなくなるんじゃないかなと思います。それで、もういっそ一点美術館を無くすか、そのもう少しきちんと飾るケースを用意するかしないと芸術性に欠けるところがあるんじゃないかなと思います。私もどうしていいかわかりませんが、やはりみんなが芸術性の高い作品を観られるような、あそこに行ってちょっといいのがあったとか、そういう古賀市の雰囲気を作って欲しいなというのが私の希望です。どこに目標とか書けないですが、そういうみんなが集まる場所、作品が人の流れを止められるようなもの、この間のぬりつなぎもいい作品を見せてもらったと思っております。そういうアートももっと増やして欲しいなと思います。

(緒方会長)

ありがとうございます。この間交流館で行われたその小野校区の写真展、僕も見ましたが、地域交流ってということでいうと、交流館に来られた方々は小野校区ではこんな運動会しているんだとか、こんなおまつりがあるんだとか、改めて古賀の中ことについて知る機会を得ているのかなというふうに思います。それと賞を出したりするっていうのもやっぱり励みになりますよね。あれを次にバトンタッチして、次の校区次の校区っていうようなことをしていき、最終的には、全校区のものから選抜した作品の展示をするとかという考え方もあるかもしれませんね。それと、一点美術館については、これも毎回出ているけれども、誰がコーディネートするのか、やっぱり、古賀には歴史資料館はありますが、美術館はないですよね。そうするとやはり、学芸員っていう人がいるわけでもないで、やはりその一点美術館の最初の内はよかったのかも知れないですけど、やっぱり維持管理していく、それとやっぱり作品出す人たちも紫外線が入ってくるようなところに作品を出すということがだんだんしんどくなってくるのはあたりするから、これを継続継承していくっていうこと考えると、それなりの専門的な知識なり、専門的な技術を持つ人たちというのが必要なのでしょうか。ただしそれを専門職として、行政が雇うというのは難しいならば、やっぱりその人材を養成するっていうのも一つ目標になってくると思います。今私が大学のほうでやりたいなと思ってるのが、学芸員の育成、リカレント（社会に出た後の学びなおし）講座というのを来年度からやろうと思ってるのですが、毎年1万人ぐらい全国の300大学ぐらいで学芸員を養成しているんですよね。ただ、なかなか学芸員として、博物館・美術館で働いている人というのはほとんどいない。資格を取ったままという人たちはたくさんいて、そういう方々を再教育することで、今、例えば一点美術館の維持管理とかっていうような可能性も出てくると思います。古賀市でそういう人材育成を来年度考えようかなということはどうなのでしょう。維持管理をしていく人材の養成というのとも考えないといけませんよね。

(事務局)

来年度のことなので、はっきりしたことはまだ決まっておませんが、今現在、県立美術館とコラボを考えていまして、古賀市にはたくさん美術品がございますので、それをどう生かしていくかということで相談させていただいて、そういった知識を持っているような市民の方を募集しようかということで今考えているところでございます。

(緒方会長)

マスタープランの中に文化芸術の人材育成の推進ということを入れているようですし、古賀市の来年度予算がつくかどうかわからないということですが、今ある様々な文化的な文化展示ゾーンというのかな、そこはやはり生かしていける人材をどうつくっていくのかというのが、一つ大きい目標になるのかもしれませんが。コーディネートしていくのが、行政の職員だけというのではなかなか難しいところもあるので、市民がそういうコーディネートしていける高度な知識を持った市民学芸員や市民コーディネーターが出てくるといいのかもしれませんがね。ありがとうございます。加藤委員お願いします。

(加藤委員)

私も大体皆さんと同じですが、今日の資料を大きな捉えで見ると、情報の提供、あるいは場の提供という目標が多いと思います。私が考える文化芸術の振興というのは、最終的にこのまちづくりに参加してもらう人をつくっていく、これが本来の文化芸術の意義であろうと考えております。だから行政が行う事業というのは、あくまでも情報の提供とか場の提供で終わってはいけない。それであるならば、全く民間のカルチャースクールと同じことになっていくわけです。だから最終的には、まちづくりを担っていただける人をつくっていくこと。具体的に一つの例でいうと、子どもたちが学校の登下校のときに、自ら道に落ちているごみを拾ってくれる、そういう状況が本来の文化芸術の目指すところというふうに考えています。だから、あくまでも行政しか出来ないことをやるべきだと思います。民間のカルチャースクールになってはだめです。いくら高度な芸術文化をやっても、そこで終わってはだめと、大きな意味ではそんなふうに考えています。

(緒方会長)

事業としてそれぞれあげてもらっていますが、加藤委員の話だと、その先に何があるのかということ行政職員もきちんと考えて政策立案していく。それは当然されてるところではあると思います。ただ事業だけが並んでくるアクションプランになってしまうとそのように見られてしまう可能性も当然あるので、そのために目標として、それぞれ事業の上のところの目標というのがあるわけで、その目標を持ってして、古賀市の人づくり、そして最終的にはまちづくりにつながっていくというアクションプランをそれぞれが共有するという大切さ、改めてそのアクションプランの原点の話をしてくださったと思います。だから事業ばかり見ていくと、本当に数だけ打っていけばいいというふうになってしまいます。それが目標にどう変えていくか、それと同時にそれが古賀市の発展、文化芸術振興、さらにはまちづくりにどのようにつながっていくのか、常に行ったり来たりしながら考えていくというのを忘れないでいきましょうという意見かなと思います。ありがとうございます。坂崎委員お願いします。

(坂崎委員)

前回は話しましたが、これだけ数があるので、ここに力を入れる、ここはそうでもないですみたいな、もうちょっとはっきりしたほうがいいかなと思います。全部出来るわけではないというか、全部できないのは当然なので、ただあんまり絞ると弊害が出てくるんでしょうけど、ある程度でもここを必ずやるんだということを提示したほうがいいし、そのことを広くみんなにアピールする必要があるのかなというふうに思います。これだけは必ずやりますというのをアピールして事業実施に取り組むなど必要かなと思います。ちょっと具体性がないかもしれませんが、僕は自身の反省も含めてですが、15、6年前の話で、そのころ行政の方と関わる機会もなかったし、今のような活動はしていなかったんですが、県立美術館で個展をした時に、1カ月ぐらい会期があって、6,000人とか7,000人ぐらいの人が芳名帳に名前を書いてくれたんです。その時、古賀市に住んで多分10年経ったくらいだったんですが、住所書いている中に、僕が知ってる人以外で古賀市の方が2人ぐらいしかいなかったんです。それで、例えば新宮とか福津と宗像とか、福岡市からみると同じ方向にいる住所の人はすごく多いんですね。その人達から、あなた古賀なの、珍しいねみたいな感じで言わ

れたんですが、その時と今とどのくらい変わっているのかなというふうに思うんですね。文化度数がどのくらい高いとか、そういう文化芸術に関心が高い人たちがどれだけ育っているかというのはすごく気になることです。今同じようなことをしてどのくらい良くなっているのか、自分は何が出来たのか考えることは多々あります。僕個人としてそういう思いがあって、もう少しそ野を広げたいとすごく思うところです。特に学校に関しては、自分でやっている活動の中で非常にボリュームを持っているので、力を入れてやりたいなというふうに思っています。もう少し効率のいい方法も何か考えていかないとなどは思っているところです。それと、僕はどちらかという仕事に関しては、古賀市内で仕事をしてることより、今閉まっていますけど福岡市美術館や県立美術館、県外の美術館で仕事をしたりしています。ちょっと言葉は難しいですけど、全体的にポジティブになるべく見ようと思っていますが、古賀市はちょっと特性があるというか特徴的だなと思うことは、例えば、今の事業でいうとアート・バスでは子どもたちに超下級の作品を見せて子どもたちの糧にしようというふうに考えていますが、古賀市で子どもたちが経験できる舞台芸術であるとか、ビジュアルアートとか視覚芸術とかそういうものを観る機会は多くはないと思っています。どちらかという、言葉は難しいですが、趣味でされた方がいい機会なんで展示していて、それを子どもたちが見に行くという機会が多いような気がします。それはある意味大事なことだけど、例えば僕は個人的に作品をつくったり、いろいろアイデアを考えたりするときに、そういうものを見に行くかというどちらかという積極的に見に行かない方なんです。わかりやすい例で今ちょうどスポーツのオリンピックやってるんですけど、例えば野球選手になりたい子どもが野球選手になりたいという時に、草野球を河原でしているおじさんたちを見て、野球選手になりたいとは思わないですよ。プロの一流の選手のプレーを見ることによって興味を持つみたいな、簡単に言うと、大人の側がもっと選んでそういう機会を提供する必要があるんじゃないかと思います。苦い言い方ではありますが、最近そういうふうに多々思います。実際に趣味の展示を観てみて楽しかったかというふうでもないというふうな感想よく聞くので、一流の作品を観るということにはやっぱり熱がすごくあるんだろうなと思います。この前、アート・バスで子どもたちを九産大の美術館に連れて行ったときに、たまたまですけど、大学院生たちが自分がつくった作品のことを説明してくれる機会を小学生に与えてくれて、言葉がちょっと難しかったりしてわからないこともあったかと思いますが、何か熱みみたいなものは伝わったんだろうなというふうに思いました。15~6人程度の参加者でしたけど、すごく熱心に聞いてたし、質問してる子がいたりとか、あとで子どもたちに自由に見せていたら、写真の話をずっとしてる子どもたちがいたりとか、その子たちは超一流かというふうでもないかもしれないけど、その熱みみたいなものはやっぱり伝わると思うんです。そういう機会をぜひつくってあげたいなと思いました。もっと精度の高いものを提供する機会もつくりたいし、もうちょっと時間はかかるかもしれないけれど、子どもたちを育てるいい機会をつくり、さっきおっしゃっていたような人材育成というのも実現できるのではないかと思うので、レベルの高いもの、それを子どもに限らず、大人の人にも提供できる機会をつくりたいなというふうに思います。アクションプランの中にそれが少しでも事業として反映されて、最初に言ったように、重要なものをもう少しセレクトできれば、よりよいものになるかなと思います。

(緒方会長)

抽象的な発言でしたね。文化度からとすると、10年前に比べて古賀の文化度というのはどうなんですか。やっぱりここに在住している本人からしてみると上がっているものなのですか。そのままなんですか。

(坂崎委員)

どっちもあると思います。上がってないと思われることも多々あるし、この辺はちょっと変わってるのかなと思うときもあります。ただ、学校に関わる人が多いので、先生たちの顔ぶれで随分力の入れ方も変わるので、学校は余り平均化されてないという印象を受けます。大人の方たちはも

のすごく高齢化が進んだ状態なので、若い人たちが育っていないというふうにおっしゃいますけど、その理由はやっぱり質の高いものを見せるとかそういう環境を与えれば、例えば古典芸能みたいなやつで子どもたちが体験する機会も少ないし、知る機会も少ないですけど、多分超下級にいいやつを見せれば何か響く子って多分いるんですよ。何だこれはという、今まで知らないレベルのものがあるとか、多分大人よりも子どもの方が伝わると思うので、そういうのはやってあげたいと思います。変わってるかと言われるとすごく難しい。変えたいなと思うところは大きいんですけど。

(緒方会長)

具体的にこの事業の中でメリハリというか、現状としては、読書活動とか音楽活動とかの塊があって、それに対して事業というのが振り分けられていると思います。今の話で言うと、それぞれの鑑賞活動でレベルの高いものや市民が感じ得るような場面をつくっていくってことになる、お金が必要になる。お金が必要だと考えると、精査してそこにお金を突っ込んでいくということにならざるを得ないということになる。このアクションプランの中でそういう希望を盛り込んでいくとなると、具体的な事業の名前として出していくというよりも、やはりこういう活動がこのアクションプランの中に入ってくるといいなという希望を出して、それを行政が事業として立ち上げてくれる、そういうまとめ方になるのかな。

(坂崎委員)

ついでにいいですか。前もお話したのですが、船原古墳とかあれは今言ったレベルになる可能性がある、力を入れるべきかと思えます。逆にそれは上手く使っていく必要があるなと思えます。それと宗像の世界遺産は、交通アクセス上ここは関係ないわけではないので、そういうものは取り入れたものは入れていきたいなと思えます。そういう、ここにないけど、隣近所にあるという超一流のやつは絶対利用したほうがいいなと思えます。

(緒方会長)

ありがとうございます。

(西野委員)

私の意見を言う前に、坂崎委員がおっしゃったことでちょっと感じたのが、要するに野球であってもあるいはサッカーであっても、スターばかり見ているわけですよ。やっぱりそれは子どもの夢として必要でしょうけど、やっぱり例えばサッカーであれば、キック、リフティングから始まる、年代も違いますけど、野球にすれば、私共は三角ベースから始まったわけですね。だからスターを観るのも必要ですが、そればかりこだわるのもどうか。これ決して坂崎委員の意見を否定するつもりではないんですけど、私の考え方として申し上げました。いらんことですけど。今日の資料の中に前の会議で1番問題だった期間の問題、これに短期間として1年から3年という短いスパンの軸が入っています。これはどうもありがとうございます。私もいいことだと思います。立場上どうしても歴史関係に目が行くわけですが、まずこの中でも例えば、自然史歴史講座、これなんかも非常に好評で、常に抽選で漏れる方が多いということも聞いておまして、私も経験したこともあるんですがね。これはバスの定員という問題があるから、一足飛びに今30名を50名にするというわけにはいかないと思いますが、応募希望者が非常に多くて落選される方が多いということであれば、やっぱり何か一考を今後、お金が絡むこともあるだろうし、何らかの方法で改善する必要があるのではないかと。それから子ども考古学部、これは非常にいいことだと思います。私は申し訳ないんですけど、これに参加したことはないんですけど、これは基本的には現状では船原ですか。考古学部の目の向け先は。それから他があればどんどんそういうことも、計画して欲しんですが。

(事務局)

船原も当然カリキュラムに入れておりますが、考古学ということで、古代のことについて学ぶ体験型になっております。

(西野委員)

今年4回だったですね。積極的にこれは是非お願いしたいと思います。次にこの中で視聴覚資料利用促進という中で、名画会というのがありますね。私も映画が好きですから、何回か利用させてもらっているんですけど、そこに毎月かけるフィルムといいますか映画、これはどなたか2~3人委員さんかなんかがおられて、フィルムを選別されているのでしょうか。それとも例えばアンケート、こういうのが観たいとか、そこらへんどうなんでしょう。

(事務局)

名画会につきましては、図書館のほうが行っている事業でございます、図書館員、司書などが中心になって選んでおります。

(西野委員)

はいそうですか。わかりました。もう一つその図書館に関係することで、この図書館でも全部あるわけではないですから、ない本を今の制度の一つとして、他の図書館とのいわゆる情報交換の中で、学校図書館・公共図書館相互貸借という事項がありますが、これはこういう本がお宅の図書館にありませんかという、その図書館の向け先の範囲は福岡市周辺あるいは福岡県内ぐらいまで広がっているのでしょうか。そこら辺もちょっと場違いですが、私は聞きたかったものでもしご存じでしたら。

(事務局)

インターネットの時代でございますので、近隣都市圏と私たちは言ってますけれども、近隣の自治体の情報っていうのは持っておりますので、相互でやりとりをして、本が読みたい、知識を得たいという方には提供できるようなサービスになっています。

(西野委員)

それが福岡県全部ぐらいですか。

(事務局)

全部ではなかったと思います。

(西野委員)

はい。わかりました。

(緒方会長)

ありがとうございました。11時を過ぎましたので、あと1時間ぐらいしかないところですが、平井委員は前回お休みで、議事録を読んでいただいて、委員の方々からの話も聞く中で、感想でもいいのでひとこと言っていただけますか。

(平井委員)

資料はかなりいい感じでまとまりましたね。目標と手段がはっきりしたので、これはすごい成果かなと思いました。皆さんがおっしゃられたことで大体網羅されてると思うんですけども、人材育成のところやはり気になって、どういう人材育成、まちづくりとかありましたけれども、私はやっぱりまちづくりプラス人づくり、人づくりというところが中心、まちというのは物ではないので、やはりそのコミュニティから成り立つので、その芸術振興というときに、アーティストなのかそのまちをつくる人なのか、もちろんアーティストはまちをつくるんですが、アーティスト、例えばソーシャルアートとか、あるいはそのソーシャルクリエイター、例えばクリエイターっていうのは別にアーティストにそのままならなくても、まちを自立的につくっていける人々、そういったコーディネーターという話がありましたけれども、そういった人々をどうやって育成していくのか、そういったパースペクティブ(展望)があると人材育成の考え方がわかりやすいかなと思います。もう一つは、この表の対象のところなんですけど、ひとつ気になるのが、3枚目の文化財が対象というのが変だなと思います。文化財指定管理事務とか、これは整備をすることで、どういう人が対象になるのかということを書いてほしいなっていうことと、これは行政としてはこれで表は完成だと思

うんですが、これは一般市民の方から見るとすごく見にくいんですよ。例えば、乳幼児の世代の人で見たら、年間どういうプログラムがあるのか、あるいは小学校・高校というふうに、ユーザーの横串で全部並べてみて、それで年間どこまで満たして、かつ、例えば2枚目の乳幼児親子相談とかで、子育て支援課とかありますけど、こういうものと、それからセカンドブックとか、読み聞かせ的なものが、一緒にできないのかとか、そういうユーザーの視点で見ることで、違うプログラムをさらに一つにして相乗効果を出してるんじゃないかとか、ここは穴を埋めようとか、そういう考え方ができるんじゃないかというふうに思いました。そういう視点が入れば、さらにこれはよくなるのではないかなというのが私の意見です。

(緒方会長)

ありがとうございます。今お話くださったように、それぞれの項目はいつ行われているのかというのはとても重要ですよ。それと、もう一つ言われていた、市民の方々がこれを活用していただかなきゃいけない。活用するってことでいうと、見ることによって、それぞれ行われる事業から自分たちの1年が出来てくるというか、そうするとやはり市民の文化芸術全般に対する参加度というのも上がってくることにもなる。平井委員のお話を聞く中で、そう思うところがありますよね。今は順番に目標に従った事業の並びになっていますが、もう一つその年齢層の発達段階に応じたところでのブロックで表が出来たりすると、その対象の方々はそれでまずあたりをつけながら自分自身の毎月の計画というのも考えやすくなってくる。より市民の方々に伝わりやすくなって今度は市民目線になってくる。今の表は、我々委員、そして行政の中ではこれでいいのかもしいかなと思いますが、これを外に出していくことを考えたときにどういう見せ方をしていくのかということも併せて今後考えていくという、一つ我々の中で目標が出来てきたのかなと思います。後期のアクションプランの中で、まだ行政が取り組めていないというか、目標はあるがそれに対してぶら下がりがまだ全然ない事業について、精査をしてこちらのほうにも盛り込んでくださいというようにするのか、それとも我々の希望として前期のアクションプラン中にはこの目標を入れていたが、現状、行政の中ではこの目標に見合う事業展開というのは今のところ想像できないためこの目標をおろすという考え方もあると思います。無理やりその目標を置いといて何とかお願いしますという言い方ももちろんあると思いますが、そのあたりでは、実際にどうなのでしょう。例えば、1ページ目からすると、その目標に対してぶら下がりはないものというのが、1番下の中期のところ、「近隣都市の文化芸術活動を調査研究し新たな視点で事業を再生します」ということですが、調査研究しということになると、それは行政がする仕事なのか、それとも、先ほどの市民コーディネーターなりクリエイターなりという話がありましたが、市民自らが調査研究し、そこで新たな視点を盛り込んでいくというふうな、このアクションプランの最終目標は人づくりということで、市民それぞれが活動を担い、それを行政に提案していくというようなことになると1番いいねというところですが、実際このあたりのところは、事業としてはないのかもしれないですが、何かしているようなことはあるのかな。

(事務局)

文化芸術活動や他市町村で現状今やっている文化事業等を調査し、本市で行ってる事業を整理したり、まとめたり、やり方を変えたり、ということは行ってはおります。ただ事業としてはっきり名前があがるようなものは、今のところないという形です。

(緒方会長)

結城委員、文化協会では他市町村の文化協会の活動の情報を共有するとか、他市町村の文化協会との交流、その情報を共有とかってというのはされていますか。

(結城委員)

芸能の方ではですね、今、福岡Iブロックといって宗像市、福津市と糟屋地区の古賀市と7町ですね、その市町の文化協会が構成された福岡Iブロックという協議会があります。あとは、糟屋地区

の文化連盟があって、あと県の県文連というのがありますので、年間通して理事会、会長会を行って、糟屋美術展の方は糟屋地区の1市7町でやっておりますので、その美術展というのは、県展の登竜門といいますか、糟屋地区の中で作品をつくって、そして県展に臨もうという感じで美術展が行われています。昔は宗像市福津市とも美術展を行っていた時期があるのですが、別にしようということになって糟屋地区の美術展ということになりました。それでも、福岡Iブロックと糟屋地区ってというのは、年間通して理事会、会長会っていうのをやっております。お互いの活動内容を情報交換しております。今は福岡Iブロックでは、講演会を持ち回りで2年前は宗像市の会長さんが宗像大社の名誉宮司さんであるので、世界遺産の沖ノ島の話をしていただきました。その次の28年度は古賀市が船原古墳の内容で桃崎先生にご講演いただいたり、29年度は須恵町が担当で専門の職員の方が須恵町の歴史をお話されたり、そういうふうに福岡Iブロックの中では講演会をIブロックでまわしています。来年度は福津市で、子ども浄瑠璃の話などを取り上げての講演会ある予定で、近隣の文化協会との中で情報交換は常に行っております。

(緒方会長)

他の市町の文化団体協会との連携協力は具体的に行われていて、そういう項目を一つ入れる。行政の担当・管轄としては文化課管轄ですよ。具体的に見えることを挙げていくと、今のように事情聴取をしながら、見ていくというやり方はありそうですね。今の話を聞くと十分に中期の目標に対して具体的に行っていることがある訳で、例えば2ページ目でいうと、中期のところで文化芸術活動に託児サービスの提供を推進します、これは今やっているんじゃないの。

(事務局)

託児というのがですね、文化課が担当している事業では行っていないんですけども、他課が担当している、例えば生涯学習推進課が担当しているコスモス市民講座や、家庭教育広場では託児は行っています。コスモス市民講座などは、別の目標の下についているので、ここには今入っていないような状況になっています。

(緒方会長)

そのようなことが、子育て支援課や生涯学習推進課などでも実際に展開しているので、書き出すことは可能なのかな。同じようにして例えば3ページでも、「市の文化的資源を観光や産業に生かします」ということでいうと、国の史跡になった船原古墳などはやはり文化的な資源を観光などに活用するということが行われてきています。最近の5年間の中で古賀市の中の変化というのが、その次の5年にバトンタッチ出来るものが多々出てきているようなので、それを書き出して行くという考え方がありそうですね。さっき平井委員のお話にあったような人材育成のところというところ、現状3ページのところで中期の「地域に文化芸術活動を推進する人材を育成します」ということでは、来年度の事業予算がはっきりとしたところにつけ加えられることも出てきそうなので、もうちょっと膨らんでくる可能性はあるなと思います。実際のところ単年事業のものも今あげられているので、来年度の予算の中で下がるものもあるかもしれない。そういう中ではこの事業自体は動いてくる可能性はあると思います。今聞かせていただいて、事業についての話というのはだんだん見えてきたところですよ。目標についても、もう少し丁寧に見ていくと、全庁的な取り組みというか、つけ加えられるようなものも段々わかってきて、それは今後付加していったらいいなと思います。あと最初に事務局の方から出していただいたアウトリーチとか地域との連携というところというところ、皆さんに話を聞いていて少しずつ見えてきたのではないかと思います。これらはどれにも関わるところであるから、新たにどの目標の中に入れるというよりもそれを意識するということが大切なのかなと思いましたがどうでしょうか。どこかに入れたほうが良ければ入れますが。ただ目標自体も前回の目標だからこれから先の5年を考えると、目標の言葉を精査してその中に地域連携やアウトリーチという単語を入れるとかいうやり方もあるのかもしれない。新たな目標というのを入れ込んでいくというよりも、今あるものについて、少し付加させています。言葉は精査して付加させて

いくということで、前回いただいた地域連携やアウトリーチというものを言葉として残すやり方もあるのかなと思います。事務局のほうからは今ずっと話を聞いていてすっかりしましたか。何かもやもやしたものがあるれば言ってもらったほうがいいのかと思います。と言うのも、年度末なので、来年度から体制自体も変わるし、事務局のほうも全く変化しないとも限らないと思うから、そういう意味ではある程度今期最後の今日、ここだけはまとめておいたほうがいいのかということがあるならまとめておきますが、皆さんのほうにもう一回問いかけて、その目標として前回あがった議事録中にも残っていますが、アウトリーチと地域連携という言葉は目標としてあげるのか、それから今あるその目標を、もう少し文言精査する中でその言葉だけを盛り込むのかということがありますが、それは皆さんに考えていただければいいと思います。今話を聞いていく中で何かこれはちょっと押さえておいて欲しいことがあれば押さえませんが。特段こっちに任せてくれるならば、今のようなことでもう一回皆さんに問いかけて一応まるってところで終わりにしたいなと思います。前回からの宿題があるのでその宿題について再度残りの時間でまとめていきたいなと思います。一つは、今日こういう文言にしますよというところまでは決められなくても方向性だけは決めておきたいなと思います。

(事務局)

目標の中に組み込んでいくようなイメージを最初は持っていましたが、緒方会長が言われたように、全体的にかかることなので目標の中に入れず方向性として行政が意識していくこともあるのかなと思いました。

(緒方会長)

ただ意識していくということであると、意識されなかったらそのままになるので、言葉として入れておいたほうがいいのかと思います。全体を見る中では、全体に関わるような事柄でもあるので、それをどうするのかというのはありますよね。

(平井委員?)

ジャストアイデアですけど、例えば概要対象担当課とありますが、そういう欄として、アウトリーチとか地域連携とか必要な項目に対して丸を入れていくとか、そういうやり方もあるかなと思いました。

(事務局)

すごくいい提案だと思います。検討させていただきます。

(平井委員)

アウトリーチなんですけど、いわゆる SNS とか、そういったものをどこまで活用してますか。というのは、アウトリーチって書くだけじゃなく、もう少し何かあるといいかなと思いました。

(緒方会長)

実際今、文化芸術の行事だとか団体の紹介だとかというのは紙媒体だけではなく、デジタルというもので市民の方々にお伝えするようなことはしていますか。

(事務局)

事業やイベントまた活動報告については、教育委員会、市長部局それぞれ古賀市としてのフェイスブック、インスタグラム、ツイッター等がありますのでそちらで発信しています。団体の一覧等につきましては、市民活動支援センター係がホームページのほうで団体の紹介をしております。

(緒方会長)

文化協会はどうなんですか。文化協会や参加団体がいろんな取り組みをするのについては何か発信はしているんですか。

(結城委員)

やっぱり紙を使ってといいますか、広報こがの文化協会の欄がありますのでそこで周知を行っています。今の事務局の体制ではホームページや SNS といったものは充実してないので、来年度から

その辺をもっと使っていきたいなと思います。実感しているのは、やっぱり人の言葉で伝えてあげないと、回覧版の中に入ってもなかなか見ていない。だから私は地域で、福祉会とかそういうところで言葉に出して、交流館でこれがありますよ、市民音楽祭がありますよ、童謡まつりがありますよと、千鳥苑でもそうやって言葉で伝えると皆さん来られます。なかなかお年寄りインターネットも見られないでしょうし、中にはやっている高齢者もいらっしゃいますが。やっぱり人から人への言葉で伝えていかないとなかなか伝わっていかない。そして本当に悲しいことですが、交流館にまだ行ったことがないという方もいらっしゃいます。だからもっと私達が地域に出向いていってお知らせしないといけないなと思います。

(緒方会長)

それぞれの人に合った広報の手段というがあるでしょうから、これだけしかやらないというのではなく、多様な広報手段を確保しながら、市民のサービス、情報提供というのは維持していかないといけないということでしょうね。情報提供のあり方というのも、前期から比べると、多様になってきているはずなので、それは来期アクションプランの中には盛り込んでおくことなのかなと思います。実際に3ページの1番上のざわめきづくりのところの「外出促進」というところで介護支援課などは、60歳以上の市民に市内のイベントや地域活動を掲載したハンドブックを作成し、参加ごとにシールを配布、5枚集めて応募でき、抽選にて商品を配布するという事業を行っている。紙媒体でさらにインセンティブ（意欲を喚起する）な特典を与えて参加を促していく。いろいろなやり方があると思いますが、やっぱりそれぞれの担当課というのはどう人を動かしていくのかということでは苦心されているのがよくわかります。60歳以上の市民を対象というのはわざわざ介護支援課の方が書いてくださっているから、紙を使った周知方法というのは維持していかないといけないんだろうなと思います。ただやはり若い人たちというのはなかなか紙媒体を見るということが難しくなっているんで、その人たちにはそれなりの情報提供のあり方があるから、今後多面的に考えていけるような言葉なり目標なりというのを入れていきたいなと思います。

(西野委員)

今、会長からこの外出促進についてちょっと言葉がありましたけど、商品というのは何種類ぐらいあるんですか。なぜ聞いたかということ、ちょっとした簡易体温計であるとかは、これはもう貰っているからシールを集めても仕方がないという声を聞いたもので。

(緒方会長)

大切な情報提供ですね。そういうものを渡すということになると、マンネリ化してしまうと人はなかなか動かない。最初は物珍しくていいなと思いますが、物で釣るのは限界があるというのは本質的なところですよ。

(坂崎委員)

最近、山間部に行くと外国人が爆発的に増えていて、学校とかで僕がボランティアでやっている事業にも、ハーフのちびっことかがやってくるようになっていきます。小学校や中学校もそうだと思いますが、そういう保護者の人たちもいると思いますし、そういう人たちの登場する機会とかを設けておいて欲しいなと思います。

(緒方会長)

2ページ目の一番下の長期の一番上のところで、「子育て世代、シニア世帯、障害者、外国人の活躍できる…」とあります。外国人居住者というのが多くなっているんですかね。

(坂崎委員)

すごく増えていると思います。多分近隣もそうだと思いますが、そういう意味では何か特色のあるもの一つでも入れられたらいいかなと思います。

(緒方会長)

外国人居住者に対する生活支援とかそういうものは、どこか担当課というのはあるんですか。

(事務局)

国際交流については経営企画課がやっていますが、語学研修については、生涯学習推進課が日本語教室としてやっております。そこには、ベトナム、中国いろんな国の方々に参加されています。

(緒方会長)

それもこの5年の中で、変化してきてるところでもあるから、そういう変化したことについては、盛り込むということも一つの考え方としてあると思いますね。

(結城委員)

以前童謡まつりでも、古賀に在住の外国の方にご出身の国の童謡とか民謡というんですか、歌っていただいた時もあります。

(緒方会長)

今いろいろ雑談中に出てくることはすごく重要だなと思います。5年の中で変わったことをこれから先の5年の中でどう盛り込んでいくのかということも踏まえて、来期の委員の中で文言を固めていくという一つの目標が出てきたのかなと思います。この5年の中で変化してきてることについては、来期の審議会の中で情報提供してもらいたいなと思いますので、ぜひ引き継ぎをよろしく願います。それと、話で出てくる場所を知らないと話を書くだけでは想像を膨らませないといけないということもあるので、今度のメンバーの方々には古賀市の文化芸術として主要な場を見てもらうとより意味のある審議議論というのが出来るのかなと思います。ありがとうございます。一応今期については、ある程度皆さん中で目標というのをいただいたところなので、それを事務局のほうでまたアクションプランをもう少し固めるところがたくさんあると思いますし、来年度予算というのが見えてきたならば事業というのもそれぞれ変化するものも出てきたりすると思うので、それはよろしく願いしたいなと思います。私の方はこれで事務局のほうにバトンを戻したいなと思いますが、よろしいですか。

5 その他事項 (事務局)

その他連絡事項としまして、事務局よりいくつかお知らせがあります。まず一つ目、前回お知らせしました市民公募についてですが、募集終了時点で、文化芸術枠1名、歴史枠1名の計2名から申し込みがありましたので、現在その2名で手続きを進めさせていただきます。また決定次第、委員の方々にはお知らせをいたします。次に、議事録署名委員である志賀委員が今回欠席されておりますので、今回の議事録署名は結城委員にお願いしようかと思っておりますが、皆様よろしいでしょうか。(各委員より議事録署名委員の変更承諾あり) ありがとうございます。それでは結城委員よろしく願いいたします。それから今回の審議会が今年度最後であるとともに、現委員さん皆様の任期期間も最後の審議会となります。一言ずつで結構ですので、最後に皆様からお一人ずつお言葉をいただけたらなと思っております。よろしく願いします。

(緒方会長)

本当に今期も皆さんの活発な意見をいただきながらこの審議会を進めさせていただきました。本当にありがとうございます。なかなか私のまとめ方というか、自由に言っていて、自由にするというのがスタンスですので、事務局のほうはそれを取りまとめということで非常に大変な思いをされたのかもしれない。でも、またこのアクションプランの後期については、非常に豊かなアクションプランが出来ていく可能性を今日感じているところでもありますので、今後とも古賀市の文化芸術の振興をされていくということを期待したいなというふうに思っています。本当にありがとうございました。

(中山副会長)

皆さんどうもお疲れさまでした。ありがとうございました。本当にそれぞれ皆さんの視点が素晴らしく、この会議に来るのが楽しみでした。事務局の方にも頑張っていてありがとうございました。

した。また、ここで出会いましたのでいろんなところでお声かけいただき、いろいろ教えていただきたいなっていうふうに思っております。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(結城委員)

古賀市文化協会の会長の結城です。私は会長職につきまして、ずっと関わらせていただきました。古賀市には、文化振興条例がある、文化芸術振興計画がある、他市町村の文化協会からとても羨ましがられております。こういう素晴らしい古賀市で文化芸術を進めていけるというのは、本当に私たちの活躍の場というか皆様もそれぞれやってありますが、本当に古賀市民でよかったなと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

(米倉委員)

私は芸術家ということで来ています。書道をちょっとしているだけですが、何も役に立たなかったような気がして申し訳ありません。緒方会長がうまくリードされるので、楽しい時間を過ごさせていただきました。どうもありがとうございました。皆さんお元気で頑張りましょう。

(平井委員)

短い間でしたけれども、非常にお世話になりました。知らないのを強みに自由に意見を言わしていただいて、毎回楽しみに皆さんの話を聞きに伺いまして、これで今期は終わりと言うことなんですけれども、非常にいい取りまとめができていますので、今後この内容が発展してさらに古賀市の文化芸術が進行することを祈念しております。また何かできることがありましたらお声掛けください。どうもありがとうございました。

(西野委員)

わずか2年1期でしたが、本当に勉強になり、そして私の質問が偏り過ぎて、歴史のことしか知りませんのですみませんでした。これから現場で赤い史跡案内ボランティアの文字の入ったジャンバーで話している年寄り私ですから、その時は手を振ってください。ありがとうございました。

(坂崎委員)

僕はもう大分長くいて、常に1番最年少だと思いますが、いつも諸先輩方がいらっしゃって、言いにくいこともいろいろ言いましたが、こちらのほうは大変勉強になったと思っています。また何かいろんな場所で機会があればよろしく願いしたいと思います。ありがとうございました。

(加藤委員)

4年間お世話になりました。毎日寝るのが午前3時ぐらいで、もう20年近くだから、その夜の静かなところでいろんな勉強してみたいし、たまには夜中に起きて、絵の掛け換えを試みたり、この4年間、実は他にもいろんなことやっていました。基本的に私は文武両道ということをもットーにしておりますが、最近武のほうがちよっと疎かになっていまして、今でも子どもたちに消防のレスキュー隊の指導もやってますし、そちらの方にも力を注ぎたいなと思っています。個人的にも、昔ずっとオートバイのレースをやっていたので、そちらの方も高齢者で復帰したいなと、新年度からは武のほうでちよっと力入れるかなと思っています。多分どこかでまた会いましょう。

6 閉会のあいさつ (星野文化課長)

【終了】